

## 第4回国道137号新たな御坂トンネル整備検討会議事概要

### 1. 日時

令和6年2月1日（木）15:00～16:45

### 2. 場所

恩賜林記念館東会議室

### 3. 委員

◎砂金伸治 東京都立大学都市環境学部教授  
大島洋志 日本応用地質学会名誉会員  
真下英人 日本建設機械施工協会施工技術総合研究所所長  
村上幸利 山梨大学名誉教授  
秋山久 山梨県県土整備部技監  
雨宮竜也 笛吹市建設部部長  
流石国男 富士河口湖町都市整備課課長

◎は座長

### 4. 参加者

オブザーバー  
本住武司 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所副所長  
事務局  
山梨県 県土整備部 道路整備課

## 第4回国道137号新たな御坂トンネル整備検討会議事概要

### 5. 議事

- (1) 複数の断層破碎帯との交差、高圧・多量湧水の発生
- (2) 大土被り区間への対応
- (3) 避難坑と本坑の離隔
- (4) 水文・地質調査の実施方針・優先度等
- (5) 今後の予定

### 6. 議事概要

- ・ 避難坑位置については、湧水を考慮して本線に対する方向（東側・西側）のメリット・デメリットを整理する。
- ・ 大土被り区間への対応として、既設の新御坂トンネルの施工時の情報・状況について改めて調査・確認し、設計に反映する。
- ・ 本坑と避難坑の横断的な離隔を検討する。
- ・ 自然由来重金属への対応としては、地質ごとの重金属溶出特性を把握する。バックグラウンド値を確認の上、モニタリングや計画への反映を行う。
- ・ 笛吹市側の水平ボーリングはトンネル施工基面下方に向けた斜めボーリングを検討する。
- ・ 藤野木-愛川構造線等の断層破碎帯の性状把握を目的としたボーリングを計画する。